

農林水産物流検討WGの検討状況について

農林水産物流検討WG

1 開催経過

(1) 設置目的

農林水産物流の効率化を目指し、課題等の検討を行い、有効な取組策等を協議会に提言する。

(2) 構成

- ①全国農業協同組合連合会秋田県本部（リーダー：園芸畜産部次長 吉田 良 氏）
- ②秋印株式会社
- ③株式会社秋田市場運送
- ④有限会社石田運輸商会
- ⑤羽後運輸株式会社
- ⑥角間川運送株式会社
- ⑦全農物流株式会社秋田支店
- ⑧日本通運株式会社秋田支店
- ⑨六郷小型貨物自動車運送株式会社
- ⑩公益社団法人秋田県トラック協会（サブリーダー：専務理事 三杉 孝昌 氏）
- ⑪秋田県販売戦略室
- ⑫秋田県園芸振興課
- ⑬秋田県商業貿易課（事務局）

(3) スケジュール

- ①令和元年12月25日（水）
第1回WG
 - ・農林水産物流検討WG設置要領（案）
 - ・リーダー、サブリーダーの選出
 - ・パイロット事業、コンサルティング事業の取組・課題等の共有
- ②令和2年2月19日（水）
第2回WG
 - ・トラックドライバーの長時間労働改善の取組
 - ・パレット化の運用 等
- ③令和2年5月（予定）
第3回WG
 - ・物流の協業化 等

2 検討状況

(1) 現状・課題の共有

- 農林水産物流の効率化に向けた情報共有として、トラック輸送における取引環境・労働時間改善秋田県協議会が行った平成29年度パイロット事業や平成30年度コンサルティング事業の取組み、課題などを参考に意見交換を行った。

(2) 検討の方向性（継続検討中）

- トラックで対応できない部分の輸送手段の確保、トラックドライバーの労働時間の短縮、パレット等の活用による荷役作業の効率化、物流コストの適正化等について、引き続き、検討を進めるとともに、今後、物流の協業化等についても検討していく。また、秋田県からの物流の配送先として首都圏以外や外国に向けた物流の構築についても検討していく。
- 農林水産省主催の「食品流通合理化検討会」の検討状況を確認しながら検討を進めるとともに、全国農業協同組合連合会秋田県本部園芸部門に設置される「青果物の物流プロジェクト会議(仮称)」と情報共有を図りながら進めていく。

【参考】WGにおける主な意見

- ・農林水産品はトラックによる輸送が大多数を占め、翌着・朝売りなど到着時間が厳格。
- ・農林水産品の輸送は手荷役が多く、ドライバーの負荷が大きい。特に青果物の輸送はドライバーに敬遠。ドライバー以外の者が対応するにしても荷役作業の軽減が必要。産地、物流、荷受け側全体の最適化が課題。
- ・コンサルティング事業等によりパレット輸送の効果は確認できたが、パレットのサイズや回収、導入経費等が課題。
- ・全国農業協同組合連合会秋田県本部が、ドライバーの長時間労働の改善に向けた取組として、令和2年1月に消費地ストックポイントを活用した二段階輸送試験を実施。コストと荷造りが今後の検討課題。
- ・全国農業協同組合連合会秋田県本部は、令和2年度に枝豆と椎茸の2品目を対象に、パレット輸送に適した段ボールの規格統一に向けた試験を行う予定。
- ・産地側のコストや流通段階のコストが価格に転嫁されていない。
- ・物流課題について、生産者や農業団体とも共有が必要。
- ・協業化の議論も必要。